

我々の進化がまちを進化させる

第48代 理事長
後藤 英範



紹介 2010年度 社団法人淡路青年会議所 理事長・直前理事長・監事・副理事長・専務理事・出向理事



理事長 後藤 英範
直前理事長 才花 毅
監事 前川 肇
監事 長尾 泰宏
副理事長 木原 慎陽
副理事長 中西 仁志
副理事長 斉藤 新太
副理事長 飛松 孝治
専務理事 畑野 信行
出向理事 上村 雄二郎
出向理事 柏木 敏孝
出向理事 横山 仁志

2009年度 事業報告

12月例会 ～夢中なる時間のエピソード～

2009年12月9日、ホテル夢海遊にて12月例会～夢中なる時間のエピソード～が開催されました。一年間のJC活動を振り返り、委員長並びに出向者による総括が行われました。そして本年度で卒業されます中川浩明君と金崎浩一君、お二人のJCに対する熱い想いをスピーチ頂き、メンバーも感慨深くお話を聞いておったように思います。後の懇親会も盛



況に終わり、お二人の門出をご祝福できたものと思います。

家族忘年会～感謝の気持ち～

2009年12月19日(土)、夢海遊淡路島におきまして2009年度最後の事業となる『家族忘



年会～感謝の気持ち～』が開催されました。一年間、青年会議所活動を支えてくださったご家族の方々にも多数ご出席して頂きました。また今年度は、出席することが出来なかったメンバーのご家族の方々にも感謝の気持ちを伝えるべく、記念品をお渡しさせて頂きました。当日は景品が当たるくじ引きがあり、1等賞は淡路ビジョン創造委員会の高津知也君に当たりました。一年間、副委員長としてひたむきに活動した結果ではないでしょうか。おめでとうございます。

例会告知

3月例会 日時：2010年3月10日18:30～21:00
場所：淡路島観光ホテル
4月例会 日時：2010年4月14日18:30～21:00
場所：津名スポーツセンター

編集後記

本年度、淡路JCプレスの編集は公益法人制度改革委員会が担当することになりました。一年間、精一杯皆様楽しんで頂ける記事をお届けできるよう頑張ります。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

さて、本年度は皆様に「躍動感ある淡路JC」をお届けしたく、フルカラーの紙面に様式も改めてプレスを作成しております。以前と様式が大きく変わりましたが、お届けする情報や内容にこだわり編集を行いますので、ご理解を頂ければ幸いです。

今月号は「2010年度の淡路JC」をテーマに絞り、理事長の方針、そして委員会の取組みを特集として編集いたしました。まだまだ始まったばかりの2010年度の淡路JC活動、全メンバーがやる気十分といったところで、非常に楽しみな一年であると感じました。

次号は4月発行となりますが、内容として社会開発委員会が実行する「島民討議会」の実行委員会を特集に取り上げ、皆様に詳しい情報をお届けしたく考えております。

最後になりましたが、皆様の暖かいご支援があってこそこの淡路JCプレスですので、どうぞ一年間よろしくお願い申し上げます。

第48代 理事長 雑感

社団法人
淡路青年会議所
理事長
後藤 英範

本年は暖冬だという情報が気象庁より出されていましたが、やはり冬でありませぬ故に例年どおりの寒さも訪れつつ、1年をとおして最も寒さの厳しいと言われるこの2月を迎えました。2010年度JCプレスの第1号として皆様のお手元に届き、目を通していただけますこと心より感謝申し上げます。

さて、1月を振り返ってみますと、新年のスタートの口火を切った1月例会、そして総会、そして多くのご来賓の皆様をお迎えしての新年会が行われました。青少年育成委員会、理事長公室、会員委員会の皆様、本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。私自身、理事長という役職を拝命してから、様々なところで話をさせていただく機会がございますが、やはりこの新年会は格別でありました。この場で挨拶をさせていただき、皆様に支えられてこそこの1年なのだと思いをいたしました。そして京都の地では、毎年恒例の京都会議LOMナイトが行われ、無事に第1回の委員会を終えられた上村君、柏木君、横山君の3名を囲んでの楽しいひとときを過ごしました。

そして2月に入り、例会はもちろんのこと、公式訪問役員懇談会も開催されます。委員長の皆様には、あえてこの時期に行う意味合いをしっかりと理解し、自らの修練と貴重な経験としていただきますようお願い申し上げます。しっかりとした理念があり、そこに信念が生まれます。その信念を持って2010年度、「Make evolution!～我々の進化がまちを進化させる～」を実行に移していただきたいと考えます。単年度制が故の選択と集中の精神で邁進いただきますようお願い申し上げます。



本年度の プレスの 取り組み

淡路JCプレスを楽しましにして頂いている皆様方に、本年度の対内広報紙発行につきまして、ご報告させて頂きたく、本年度の取組みとして、例年発行致しておりましたプレスとして対内広報紙を発行するのではなく、フルカラーデザインとして刷新した内容でプレスを発行すること、またホームページ内にて月一回のニュース記事を掲載することとなり、発行回数が増え、紙面での発行は月一回発行の年六回発行となりました。皆様方に情報をお届けする機会が減ってしまいました。その一つひとつを内容の充実にごこだわって紙面作りを行ってまいりますので、今後とも淡路JCプレスを宜しくお願致します。

ホームページでは「Awaji JC Net News」を毎月掲載しています!

そちらも併せてぜひともお読みくださいませ!

検索 **淡路JC** 内の

「Awaji JC Net News」でお読みになれます。

理事長公室

淡路JC陰の花形

理事長の秘書的業務、専務理事の補佐など社団法人淡路青年会議所活動の事務的な役割及び、理事長とメンバーとのパイプ役を担っています。そして、広報活動にてホームページの作成・管理を行い、社団法人淡路青年会議所活動の魅力を対内外に知って頂くために委員会活動を行い、そしてこの淡路JCがよりよく運営されるための縁の下から支え続けます！



公室長 出口 利一
委員会スローガン
不言実行

公益法人制度改革委員会

淡路JC、未来への選択肢

本年度、我々淡路JCは新公益法人制度に対して、公益法人か一般社団法人のいずれかを選択しなければなりません。今の選択が今後の淡路JCの在り方にまで影響する為、決断は慎重に行う必要があります。私たちの委員会は、この選択に対してメンバー全員がより確かな決断を下せるよう導くために活動してまいります。



委員長 大畑 一也
委員会スローガン
決断

社会開発委員会

感動の追求

自他共に認められる明るい豊かな淡路島を目指す為、これからの地域は個性及び自立性をより一層高めなければならぬと考えます。国では地方分権が推進され道州制の導入も検討される中、地域住民が自らの手で責任を持ち、そして自らの手で治めていくことが必要な時代になってきました。それらの事を集約し、時代の先駆けとして「今必要なもの」を社会に向け一石を投じたい。そのために委員会は決死の覚悟で行動していきます。



委員長 原田 啓行
委員会スローガン
知行合一

青少年育成委員会

地域の大人と子どものいい関係

我々青少年育成委員会は多くの大人と子どもが参画でき、地域コミュニティーの中で関わりを持ち、共に協力し感動が味わえるとともに様々な学びが得られる事業を展開します。この事業を通じ地域における大人と子どもの関わりをあるべき姿へと変革し、「地域が子どもを育てる」ことの大切さをこの淡路島に浸透させます。



委員長 向内 英光
委員会スローガン
地域一体

新年祈願

2010年1月6日、厳島神社にて後藤理事長をはじめとする2010年度の理事全員で恒例の新年祈願が行われました。

2010年度の門出を祈願する大切な行事であり、この新年祈願を持ってよいよ新体制が本格的に始動するとあって、参加者全員が気の引き締まる面持ちでありました。



新年祈願

1月例会

2010年1月13日、淡路夢泉景にて本年度最初の事業である1月例会～進化への第一歩～が開催されました。本例会では2009年度の褒章者授与式が執り行われ、最優秀新入会員賞に木下紘二君、最優秀会員賞に出口利一君が選ばれました。そして、最優秀事業賞に斉藤新太委員長率いる淡路の未来育成委員会が執り行った「つなごう!君のゆく未来へ! in いえしまキャンプ」、最優秀委員会賞に原田啓行委員長が率いた淡路ビジョン創造委員会が選ばれました。褒章授与式後、2010年度の委員委員長の決意表明も行われて新たなスタートをメンバー全員で誓う例会となりました。



1月例会

新年会

1月例会と日と同じく2010年1月13日、淡路夢泉景にて各種団体の皆様、他LOMの皆様やOB諸兄の皆様方に旧年の御礼並びに新年年度体制をお披露する新年会が執り行われました。

当日は西村康稔衆議院議員、柳葉朗洲本市長、門康彦淡路市長、中田勝久南あわじ市長をはじめ多くのご来賓の皆様方にお越しいただき、その中で第48代後藤英範理事長による所信表明演説、新三役並びに新入会員の紹介が行われ、新年度体制のご報告がなされました。

新年会では多くの皆様方とメンバーが懇親を深め、盛況に執り行われました。



所信表明



まをを進化させる。

我々の進化が



2010年度の理念

本年度は、「Make evolution!」我々の進化がまちを進化させる」をスローガンとして、淡路島に住む方々に地域という枠組みの大切さや必要性について感じていただくような事業展開をしてみたいと考えています。

2006年12月、小泉政権において国と地方との役割分担を見直すと共に、国の関与と補助金の廃止や縮小を図る目的で、地方分権改革推進法が成立しました。この法律の目的は、個性豊かで活力に満ちた地域社会の実現を図ることです。地方自治の基本は住民自治であり、それはつまり住民自らが自分たちの住む地域のことを考え、自らの手で治めていくということなのです。そのためには、市民のまちづくりに対する意識高揚が必要であり、「他人任せ」「無関心」「無責任」という意識が市民に蔓延している時代だからこそ、地域に住む市民一人ひとりが関わる市民主導のまちづくりが求められていると感じます。しかし、市民が地域の問題や課題を行政に発信する場はあっても、その参加者は偏っており、大多数の市民は意見を述べることも出来ず、おきざりになったままであり

ます。そこで我々青年会議所の立場を生かし、参加者を特定せず、地域や行政が抱えている問題点等を積極的に議論し合う機会を作りたいと考えています。そして市民自身がまちづくりについて考えることの意味を伝え、無責任主義の風潮からの脱却を図り、理想とする市民主導のまちづくりを実現してまいります。

いつの時代でも元氣一杯の子どもの存在は、まちに活力を与えてくれます。子どもは成長過程において、親や友達そして地域の大人等といった多くの人と出会い、ふれあいながら育ちます。そこで子どもは様々なことを学び、社会性や協調性を身に付け、また、思いやりや信頼する心を育みます。私は、淡路島の子どもたちがそんな環境の中で愛情杯に育まれ、思いやり溢れる心豊かな人として成長することを願っています。しかしながら、現在の子どもたちはどうでしょうか。子どもたちの成長過程において欠かすことのない家庭内の環境は変わってしまい、また、地域との繋がりも希薄化してきております。そこで我々は、今一度、子どもたちの成長の基盤の一つである

地域のあり方を見つめ直し、子どもたちの周囲を取り巻く大人に「子どもたちは地域で育てる」という意識を持っていただくことを考えます。そのためには、地域の大人が子どもたちと共に協力し、努力し、二つの目標を達成する感動を味わうことが必要であるとされます。大人と子どもとの絆が地域の絆を生み出し、その絆がよりよい地域を構築するものと確信しております。

道州制という新たな枠組みが叫ばれている中、それぞれの地域はその生き残りやかけ、現在よりさらに厳しい競争時代に突入すると感じます。その枠組みの変化に伴い、国からの支援が縮小されていく中、そこに暮らす住民ひとり一人の双肩に地域の生き残りや懸かっているのは、私たちを育んでくれる郷土(地域の生き残り)と個々の本当の意味での幸福の実現に向け、自分が郷土(地域)に対して何が出来るのかを自問し、実際にその郷土(地域)のために何を成していくかということであるとされます。私自身もそのことを胸に行動してまいります。

